

---

# 魔法少女リリカルなのは StrikerS 未来に思いを馳せて

天海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは Strikers 未来に思いを馳せて

### 【Nコード】

N0181BA

### 【作者名】

天海

### 【あらすじ】

小学校3年生のなのはは悩んでいた。

「将来、私は何になりたいんだろう……」

勉強はまあまあ、運動はダメ。

これといって特技もない。やりたいこともない。

何もできない、そんなやりきれない気持ちを抱えたまま、学校生活を送っていた。

だが、ある日、なのはは未来にタイムスリップしたのだった。

## はじめに(前書き)

この話はフィクションです。

今から私が話すことは、私にとっても信じ難いこと。

このことを、  
なのはから聞いたのは、  
11年前。

真実とわかったのは1年前。

あの時は、本当に驚きました。

信じられないような、でも本当の話をこれからします。

……え？  
私？

はじめまして。

私の名前は、フェイト・T・ハラオウンです。

管理局の局員で執務官をやっています。

凶悪事件などを担当しています。

あ、なのはというのは、私の幼馴染で大親友の高町なのは。

なのはも管理局の局員で、階級は一等空尉。

彼女は今回のJ・S事件の功績で、昇進の話があったのに、それを断って……ま、まあ、それはいいとして

それでは、

魔法少女リリカルなのは S t r i k e s 未来に思いを馳せて  
始  
まります。

## 第一話 なのはの話

|||||

フェイトside

時をさかのぼり、私達が9歳の頃、約11年前に戻る。

A's編で起こった、闇の書事件が終息し、なのはと私は、休暇中で冬休みの最中だ。

季節は冬。二人きりでコタツに入り、みかんを食べ、まったりしている。

「静かだね」

「お正月だからねえ。フェイトちゃんは準備万全？」

「うん、2泊の旅だよね」

高町家、月村家、パニングス家、ハラオウン家の4家族合同で今夜から、温泉旅行に行く。

旅行の話が一段落すると、私はなのはに聞いた。

「そういえば、なのははユーノと初めて会った時、魔法にも出会ったんだよね？」

「あー、うん…そうだね」

「たった半年ぐらいで、そんなに強くなるなんてすごいよなって、今更だけど思ったよ」

「うん……」

なのはは急に歯切りが悪くなった。

「？」

その様子を見て、不思議に思う私。

「あのね、実は……」



## 第二話 物語のはじまり

時は無印編の一話に戻る。

今日、なのはがユーノと出会ったはずの日となった。

そう  
はず  
だったんだ。

今日は、  
わたしは学校にあっ  
たので登校してい  
た。

授業の一つの総合学習で、将来の職業についての話を先生がしたのだ。

その話を聞きながら、なのはは考えていた。

(わたしは何になりたいんだろう……)

家の翠屋を継ぐという選択肢もあることはある。

翠屋というのは、喫茶店で結構人気だ。

けど、やりたいことかと言われるとよくわからない。

将来のことを考えていないのは、自分だけではないだろうか。

昼休み

屋上でベンチに座り、弁当を食べながら、親友のアリサとすずかにその話をする。

「わたしは、お父さんとお母さんが会社経営だからいっぱい勉強

して、ちゃんと後を継がなきゃって程度だけど？」

アリサの両親は、大きい会社を経営していて、お金持ち。

「わたしは、機械系が好きだから、工学系で専門職がいいなって」

すずかは大人しい性格だけど、運動神経抜群だ。すずかの家もお金持ち。

この二人の家はすごく大きい。

「でも、こんなの、考えていないのと大して変わらないわよ」

「そつだよなのはちゃん。考える時間はいっぱいあるんだし」

二人がフォローしてくれるが、まだ気分は晴れない。

「でも…わたし、特技も取り柄もない」「ばかちんっ！」「きゃー!?!?」

アリサが急に怒鳴った。

「自分からそういってしまうんじゃないの!」

「そうだよ。なのはちゃんにしかできないこと、きっとあるよ」

慰めてくれるすずか。

「それに!」

アリサはなのはを指差す。

「アンタ、理数の成績はこのわたしよりいいじゃないの! それで取り柄がないとは、どの口が言うわけ!」

と、アリサはなのはの両頬をぐいぐい引っ張りだした。

「にゃ〜! だ、だって、文系苦手だし、体育も苦手だし!」

「あ、あの、二人ともダメだよ」

すずかが止めに入る。

こんな、落ち着きがないけど、平穏な日々が続いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0181ba/>

---

魔法少女リリカルなのは StrikerS 未来に思いを馳せて

2012年1月1日02時46分発行